

United Nations Global Compact
United Nations
New York, NY 10017
United States of America

July 3, 2023

UN Global Compact Communication on Engagement

この書面により、学校法人聖学院は、国連グローバルコンパクトが掲げる 10 原則および、SDGs 達成に向けての推進活動に賛同し、「神を仰ぎ 人に仕う」という当学校法人の教育理念に基づいた活動の実践によって、グローバルコンパクトの支援となる活動を継続して行っていくことを表明します。私たち、学校法人聖学院の SDGs 推進に向けての考え方と活動実績は、添付した資料をご参照ください。

With this letter, Seigakuin University & Schools agrees to the Ten Principles of the United Nations Global Compact and promotional activities toward achieving the SDGs and expresses our intention to continue to carry out activities that support the Global Compact by practicing activities based on our educational philosophy of "Love God and Serve His People."

We expressed our ideas and list of past activities as Seigakuin University & Schools toward promoting the SDGs in the attached document, Please refer to it.

学校法人聖学院は 2023 年制定の第 2 期ビジョンにおいて、「誰一人取り残さない」世界を目指す宣言を継続しています。学校法人聖学院は幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、大学院を擁するキリスト教主義の学校法人です。それぞれの学校の発達段階に応じて、相応しい「誰一人取り残さない」世界を目指す実践を行っております。私たちは、世界中の人々と協力をして、持続的な未来を描いていくためには、教育の力が大きいことを自覚しています。また、教育はもちろんのこと、聖学院の各校の資源を活用し、地域の課題解決に貢献できることがあると考えています。

Seigakuin University & Schools continue to aim for a world where "No one will be left behind" through our 2nd term vision, formulated in 2023.

Seigakuin University & Schools is a Christian educational corporation that has a preschool, elementary school, junior high school, high school, university, and graduate school. At each level of educational development, our practice is consistent with our vision for a world where "No one will be left behind."

In order to work with people around the world to shape a sustainable future, we are aware of the significant power of education.

In addition to education, we believe that we can utilize each of Seigakuin's schools' resources to contribute toward resolving regional issues.

神から与えられた私たち聖学院が、学校法人としての社会的責任とその能力に期待されることにおいて、地域に、日本に、世界に、地球に、未来に対して貢献することを誓い、国連グローバルコンパクトへの宣言といたします。

We, as Seigakuin, blessed and provided for by God, have a social responsibility as an educational corporation, relied upon for our abilities, vow to contribute toward the future of the region, Japan, the world, and the Earth, and declare allegiance to the United Nations Global Compact.

Cordially submitted

小池 茂子

Shigeko Koike

Chair

Seigakuin University&Schools

国連グローバル・コンパクトの活動を促進する本法人の活動報告

Description Of The Practical Actions (2021年7月～2023年6月末)

1. 学校法人 聖学院全体の活動の要約

学校法人聖学院内の学生・生徒、教職員のSDGsへの関心はさらに高まり、たくさんの具体的な活動が実践されてきました。日常の授業や課外活動によってSDGsの推進が行われていますが、代表する活動としては以下の3項目があげられます。

1つ目は「ESD・SDGs教育デザインユニット」が推進する「中高生SDGsプロジェクト」の活動です。東京都北区の駒込に所在地がある聖学院小学校、女子聖学院中学校・高等学校（以下、女子聖学院中高）、聖学院中学校・高等学校（以下、聖学院中高）の3校は共同で、「教育デザイン開発センター」を組織しており、ESD・SDGs教育デザインユニットが設置されています。当ユニットの主要な活動の一つに中高生SDGsプロジェクトがあり、2021年度は防災をテーマとして、2022年度は環境をテーマとして、イベントを開催するなどのプロジェクト活動を行いました。

2つ目は2022年4月に聖学院大学に開設された「聖学院大学サステナビリティ推進センター（以下SSC）」の活動です。SSCは、SDGs・サステナビリティ推進に関わる大学の中の活動を統括するとともに、「地域のプラットフォーム」として大学と学外の諸団体、企業、自治体等の連携・協働を促進し、持続可能な社会と世界の形成に向けてグローバルな役割をも担っています。大学内外でSDGs推進をめざす学生団体「Petite Arche（プチ・アルシュ）」はSSCのサポートを受けながら、「古着プロジェクト」「野菜づくりプロジェクト」「学食寄付メニュープロジェクト」などを行いました。

3つ目は、2022年度が第3回目の開催となった「聖学院SDGsコンテスト」です。第3回ではそれまでの「写真・動画部門」コンテストに加えて「ソーシャルアクション部門」と「英語スピーチ部門」を新設しました。優秀作品はホームページで発表する他、12月に東京ビッグサイトで開催された「エコプロ」に出展をして、そのブースに作品を展示しました。エコプロの開催終了後は大学の学食でも作品展示を行いました。優秀者への賞品もオリジナルボトルやコンポストバッグなど、SDGsに因んだものを選択しています。

2. 聖学院各校の活動報告

聖学院中学校・高等学校、女子聖学院中学校・高等学校

◇中高生SDGsプロジェクト

【2021年度 防災エコプロジェクト】聖学院中高、女子聖学院中高の約100名の生徒がハザードマップ作り、防災時のシミュレーション、防災時の食事などをテーマにプロジェクト活動を実施。防災についての学びをワークショップとして設計し、12/23（木）に中高生のみで「防災エコキャンプ」を実施。3/23（水）は聖学院小学校児童50名が参加して第2回目の「防災エコキャンプ」を実施しました。

【2022年度 環境エコプロジェクト】2022年度の中高生SDGsプロジェクトでは「廃棄物削減」「CO2削減・エネルギー」「水保全・資源利用」「食・菜園」をコンセプトとする生徒による8つのチームが作られ、夏以降、プロジェクト活動が行われてきました。その成果として、校内でコンポスト作りと学校菜園がスタートしました。ペットボトルの量を減らすためにマイボトルの携帯が推奨され、校内にウォーターサーバーを設置しました。世界気象デーである3/23を聖学院SDGsデーとして制定。2023年の3/23（木）は『SDGs環境デー』として中高生プロジェクトチームのうち「学校菜園」「再生可能エネルギー」のチームが聖学院小学校の児童を対象としてワークショップを行いました。希望者児童約20名が参加をしました。翌日、3/24（金）は1年間のプロジェクト活動の最終報告会を実施しました。

聖学院小学校

◇教科を通した SDGs 促進

社会・生活科の授業で災害について学び、図工では防災をテーマとしたポスターの作成を行いました。体育の授業では「ブラインドサッカー」「シッティングバレー」を体験しました。

◇チャイルドサポーター制度での支援

日本国際飢餓対策機構が推進するチャイルドサポーター制度に賛同し、2016 年より支援を行っています。各学年が「里親」となりバングラデシュ、カンボジア、フィリピン、ボリビアなど対象国の子どもを「里子」として毎月の誕生献金から送金しています。教室には支援している「里子」の写真を飾り、クリスマスカードの交換も行っています。

◇ACEF（認定 NPO アジアキリスト教教育基金）への協力

ACEF は「すべての子どもたちが教育を受けられるようにすること」を目的として 1990 年に組織され、バングラデシュの小学校の支援などを行なっています。聖学院小学校の聖学院フェア（文化祭）では毎年 ACEF が出店し、バングラデシュの女性の手作りの商品を販売しています。また児童会宗教委員会の児童は募金箱による募金活動を実施して ACEF を支援しています。



校内に設置されたチャイルドサポーターコーナー

女子聖学院中学校・高等学校

◇国語授業「絶滅の意味」（高3）

文系のクラスを対象に、人間の行為が原因者となる現在の「絶滅」について、自分の考えをまとめて文章化する授業を行いました。

◇英語授業「コミュニケーション英語」（高2）

コミュニケーション英語で扱うトピックはほぼ SDGs と関連しています。スライドを用いたプレゼンテーションを実施し、ディベートも実施します。生徒たちのプレゼンテーション力が向上していることを実感しています。

◇英語講座「国際教育委員会 JSG 講座」（中1 希望者）

国際教育委員会が担当する講座で、夏休みの期間を利用して、貧困や飢餓、教育についての世界の現状を英語の学習を通して学びます。

◇理科「理科見学旅行」（中2～高3、希望者）

夏休み中に行われる3泊4日のプログラムで海や陸の自然を通して、その豊かさを学びます。

事前学習を10回以上旅行前に実施することで、理科学習の「着眼点と実体験」が得られています。

◇生徒会活動「防災委員会」（中高6学年対象）

生徒会活動のメンバーとして防災委員会があります。学校や通学途中で被災した際にどのように対処すべきかなどのお話し合いが定期的に行われており、防災や普段の生活について考えています。



JSG 講座（フィリピン・ザンビア）



理科見学旅行

聖学院中学校・高等学校

◇宿泊学習

SDGs と共通のコンセプトを多く持つ、糸魚川農村体験、ソーシャル・デザイン・キャンプ、沖縄平和学習、タイ研修、カンボジア研修などの宿泊学習を実施しています。

ソーシャル・デザイン・キャンプでは、地域の歴史を社会科で学び、データの分析について数学や情報で学びます。地域経済分析システム（RESAS：リーサス）を活用して地域のデータを分析して、地方創生の提案を作成しました。

一人の生徒は「地方創生★政策アイデアコンテスト 2022」において、高校生・中学生以下の部で「東北経済産業局 局長賞」を受賞しました。また 3 名のグループは総務省と独立行政法人統計センターが開催する「統計データ分析コンペティション 2022」において、高校の部の「審査員奨励賞」を受賞しました。

◇社会科（公民）「クエストカップ」出場

クエストカップ実行委員会、教育と探求社が主催する探究学習「クエストエデュケーション」に取り組み「クエスカップ」に出場しています。企業から出されたお題に取り組み、近い未来の社会課題に対する解決策を提案します。

◇Global Innovation Class(GIC)

「ものづくり」「ことづくり」を通して世界に貢献できるグローバルイノベーターを育成するクラスです。リベラルアーツを基礎に、STEAM 教育や、英語で SDGs を学ぶ Immersion を導入しています。プロジェクト（ゼミ）では社会課題をテーマにして探究的な学びを行い、グローバルな課題や SDGs を自分事として理解していきます。

◇GIC/Immersion「グローバリゼーション・サステナブルタウン」

カーボンカードを活用したワークショップ。会話のカーボンフットプリントなどが表記されたカードを使用して、環境に配慮したミールプランを英語でつくりました。

◇GIC/プロジェクト（ゼミ）活動

聖学院高校 GIC の大きな特色がプロジェクト（ゼミ）の活動です。生徒は「宗教・文化」「海洋」「起業・国際」「音食体・生活」「哲学・メディア・芸術」の 5 つのゼミのいずれかに所属をします。

10 月下旬にはプロジェクトの中間発表を行うプロジェクトウィークを設定し、教職員や保護者、専門の方を招いてプロジェクトの進捗を発表しました。2022 年の発表は渋谷 QWS で行われました。

「起業・国際ゼミ」ソーシャルビジネスのプランを考えて、実際に起業する事をめざします。ビジネスプランコンテストにも応募をします。

「海洋ゼミ」マイクロプラスチック問題を考え、海岸のゴミ拾い活動などを行っています。学校内のプラスチックボトル削減のためにウォーターサーバーを学校に導入するための計画提案も実施。海洋ゼミの生徒が中高生 SDGs プロジェクト（環境エコプロジェクト）のメンバーとなり管理職の教員に交渉。

実際にウォーターサーバーが導入されました。

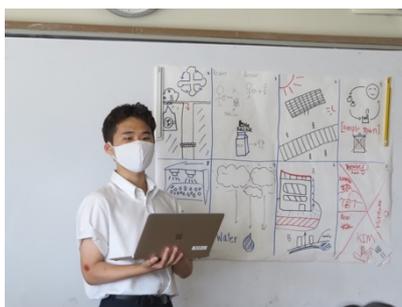
「音食体・生活ゼミ」高齢者や子育て世代、日本在住外国人など生活に課題を抱える人々の生活課題を解決するために、音、食、体を使った解決策をデザインします。例えば北区志茂でのオンライン防災訓練などを行いました。

◇みつばちプロジェクト

屋上に巣箱を設置し、みつばちを飼育しハチミツを作って販売しています。渋沢栄一翁の大河ドラマ化によって設置された東京都北区飛鳥山公園の渋沢×北区飛鳥山おみやげ館などで聖学院みつばちプロジェクトのハチミツ、規格外の果物を使って作ったジャム、ハチミツ入りのジンジャーエールなどが販売されています。



クエストカップでの発表



GIC Immersion

聖学院大学

◇「さいたま市 CS・SDGs パートナーズ」に加入

8月4日付で包括協定を締結。さいたま市の市民満足度の向上とSDGsの達成に取り組む教育機関として「さいたま市 CS・SDGs パートナーズ共同宣言書」をいただきました。

◇公開講演会

「大量廃棄社会の、その先へ」(2022.11/16)

□講師：仲村 和代氏 (朝日新聞社デジタル機動報道部次長)

「サステイナブル・ファッション～人と自然と衣服のつながり～」(2023.4/26)

講師：鎌田安里紗氏 (一社) unisteps 共同代表理事

「発達障害当事者と『ハッタツ』を語ろうー私たちが創る、共に生きる社会」(2023.3/25)

登壇者：光武 克 発達障害バー「The BRATs」オーナー、

姫野 圭 フリーライター、

池田 誠 放課後等デイサービス「BUTTERFLY EFFECT」創設者

他

◇学食寄付メニュープロジェクト (2022.12/5～23)

学食の売上金の一部を国連 WFP (World Food Programme: 世界食糧計画) に寄付する仕組みを利用して発展途上国の子どもたちへの学校給食支援のための活動を行いました。

◇古着プロジェクト「古着回収」(2022.7～10月)

「古着ファッションショー」(2022.11/16)

学生団体 Petite Arche の企画。古着の魅力や再利用方法、古着がSDGsにつながることを発信する活動に取り組みました。SDGsに取り組む繊維専門商社を訪問。11/16(水)には学内で集めた古着を集めて古着ファッションショーを開催し、メディアにも取り上げられ、古着の抱える社会問題について発信することができました。回収した古着をリサイクル会場に置いて自由に持って帰ってもらい、寄付金を集め、集まった寄付は教育の機会を十分に得られない子どもに対して教育支援を行う団体に寄付いたし

ました。

◇野菜づくりプロジェクト

学内でつくった野菜を学食に提供することでゴール 12「つくる責任つかう責任」の達成をめざす野菜づくりプロジェクト。初年度である 2022 年は「農業を知る」という目標のもと、農業体験を月 1 回程度参加し、学びました。

◇「エコプロ」ブース出展 (2022.12/7~9)

2022 年 12/7(水)~9 (金) に東京ビッグサイトで開催された「エコプロ 2022」に出展。

聖学院として 2 ブース出展したうちの 1 つ「聖学院大学 Petite Arche」のブースの企画・運営を学生団体 Petite Arche が行いました。

◇「SDGs & Seig Newsletter」の発行

大学内の SDGs に関連する学生や教職員の活動をまとめた「SDGs & Seig Newsletter」(2022-2023) が聖学院大学サステナビリティ推進センターによって発行されました。

◇中高授業連携 聖学院中高 L.L.T 女子聖学院中高防災講座



「エコプロ 2022」に参加した Petite Arche



SDGs & Seig Newsletter 2022-2023

聖学院広報センター

◇「聖学院 SDGs コンテスト」

2021 年 (第 2 回) コンテスト実施 応募期間: 2021 年 9/15~10/20

テーマ: 探してみよう SDGs 応募総数: 102 作品

最優秀賞 (1 名)・優秀賞 (2 名)・佳作 (4 名)・特別賞 1 名

2022 年 (第 3 回) コンテスト実施 応募期間: 2022 年 9/1~10/10

テーマ: 未来に残したいもの 応募総数: 114 作品

最優秀賞 (1 名)・優秀賞 (2 名)・佳作 (4 名)・特別賞 1 名

第 3 回は「写真・動画部門」の応募に加えて「英語スピーチ部門」「ソーシャルアクション部門」のコン

テストを実施しました。

ソーシャルアクション部門 最優秀賞 1名

英語スピーチ部門 最優秀賞 1名 優秀賞 2名

◇「エコプロ」に出展

2021年(12/8～10)、2022年(12/7～9)に出展しました。

2021年は「聖学院大学 聖学院中学校・高等学校 女子聖学院中学校・高等学校 聖学院小学校」の4校連名での参加。2022年度は聖学院大学サステナビリティ推進センター、学生団体 Petite Arche が「聖学院大学 Petite Arche」ブースを企画、運営をし、「聖学院中学校・高等学校 女子聖学院中学校・高等学校 聖学院小学校」の連名ブースを広報センターが企画・運営しました。



第3回
聖学院 SDGs コンテストチラシ



「エコプロ 2022」
聖学院の出展ブース

本法人の活動成果の報告

Measurement Of Outcomes

1. 学校法人 聖学院全体の活動成果の要約

今年、聖学院は創立 120 周年を迎えました。2018 年に策定した聖学院ビジョン 1 期 (2018-2023) が終了し、第 2 期ビジョン (2023-2027) の策定を行いました。第 2 期ビジョンでも引き続き「誰一人取り残さない世界の実現をめざす」ことを掲げています。

聖学院中高、女子聖学院中高、聖学院小学校が共同で組織する教育デザイン開発センター「ESD・SDGs 教育デザインユニット」は 2021 年度、2022 年度「SDGs 教育マップ」の作成と「中高生 SDGs プロジェクト」の企画・運営を主な活動内容としました。

聖学院の重点活動分野として「防災・福祉・コミュニティ」「資源・環境」「平和・公正」を指定し、それぞれの学校で行っている、授業、課外授業、プロジェクトの洗い出しを行い SDGs 教育マップの作成を行いました。

中高生 SDGs プロジェクト、2022 年度は「環境」をテーマとしたプロジェクト活動を行い、ウォーターサーバーの導入、コンポストバグの設置、学校菜園の設置などの成果がありました。2023 年度からはプロジェクトの活動がより生徒たちの主体的なものとなります。

こうした活動の記録をまとめて、聖学院中高、女子聖学院中高、聖学院小学校、それぞれの学校単位でユネスコスクールの加盟申請を行いました。

聖学院大学では聖学院大学サステイナビリティ推進センターの活動が成果につながっています。古着プロジェクトの活動は他大学（青山学院大学、関東学院大学）との連携を生み、聖学院大学チャペルでの古着ファッションショーの開催に至りました。また、Petite Arche の学生が主体となって「エコプロ 2022」のブースの運営が行われ、学生たちにとっての大きな学びの場となりました。

2. ユネスコスクール加盟申請

聖学院中学校・高等学校、女子聖学院中学校・高等学校、聖学院小学校はそれぞれの学校単位でユネスコスクールの加盟申請を行い、2022 年をチャレンジ期間として活動を行い、その活動記録をまとめ、書類提出を行いました。現在は審査中です。

3. 中高生 SDGs プロジェクト 2nd ステージ「環境エコプロジェクト」からの成果（聖学院中高、女子聖学院中高）

「廃棄物削減」「CO2 削減・エネルギー」「水保全・資源利用」「食・菜園」の 4 つのコンセプトに基づき 8 つのチームが作られ、以下の成果をあげるに至りました。

- ①ペットボトル削減、マイボトル推奨に向けてウォーターサーバーを 1 機導入。
- ②学校内（中庭、屋上）に菜園が作られ野菜やハーブの栽培が行われました。
- ③ソーラーパネルの屋上設置に向けてキットを使って集められる電力の測定を行いました。



ウォーターサーバー



コンポストバッグ

4. 聖学院大学サステナビリティ推進センター（SSC）

聖学院大学では聖学院大学サステナビリティ推進センターを中心に、大学内における SDGs・サステナビリティ推進に関わる活動が行われています。学生団体「Petite Arche」と一緒に、「古着プロジェクト」「野菜づくりプロジェクト」「学食寄付メニュープロジェクト」などのプロジェクトに取り組み、それぞれ以下の成果がありました。

① 「古着プロジェクト」2022年11月に古着ファッションショーを開催

約 220 名の会場参加者、約 110 名のオンライン参加者がありました。

古着リサイクル会場で集められた寄付金 4,264 円は公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンへ寄付されました。

●古着ファッションショー／展示&古着リサイクル 実施概要

企画：聖学院大学サステナビリティ推進センター

Petite Arche（聖学院大学 学生団体）

関東学院大学石坂ゼミ

青山学院大学 SANDS

協力：豊島株式会社

日時：2022年11月16日（水）10:30～16:00

場所：聖学院大学

② 「野菜づくりプロジェクト」埼玉県上尾市にある農園「いまここファーム」で月1回程度の農業体験を行なっています。成果としては、10月下旬に聖学院大学内での野菜づくりが開始されたことがあげられます。

食品ロス削減の啓蒙を目的として、「ベジブロス」作成の料理動画を作成し、広報センターが運営する「聖学院 SDGs コンテスト」に応募しました。動画はさらに長編バージョンが制作されています。

③ 「学食寄付メニュープロジェクト」学食の特定のメニューの売り上げの一部を国連 WFP に寄付することで世界の飢餓に苦しむ子どもたちへの学校給食支援を行うプロジェクトで、2022年が3回目の実施となります。

総額 24,340 円、給食 811 食分を寄付することができました。

●学食寄付メニュー 実施概要

期間：2022年12月5日（月）～12月23日（金）

場所：聖学院大学4号館1階 学生食堂

企画：聖学院大学サステナビリティ推進センター

Petite Arche

株式会社レパスト

寄付メニュー：

週替わりデザート 250～350 円（うち 20 円が寄付）

ドーナツ チョコレート 200 円／プレーン 150 円（うち 20 円が寄付）

フライドポテト 200 円（うち 20 円が寄付）

プーティン（フライドポテトにグレイビーソース、チーズをかけた料理）250 円（うち 20 円が寄付）

サービスセット 450 円（うち 30 円が寄付）

日替わりプレート 500 円（うち 30 円が寄付）

日替わりサラダ 200 円（うち 20 円が寄付）



古着ファッションショー



学食寄付メニュープロジェクト